

〈日本バプテスト女性連合〉

「三バプテスト女性会研修会に寄せて」



濃いピンク色の緋寒桜が満開の2004年2月に開催された「第10回アジアバプテスト女性大会」をOBC女性会、JBU女性会、JBWUの三者で労し交わりが深められた中から生まれた「三バプテスト女性会研修会」も3回目を迎えます。これまでの研修会において共にみことばから励ましをいただき、それぞれの歴史や活動を知る時となり感謝でした。今回の研修会、コロナ危機の中人数制限をしながらの会となりますが、豊かな時となりますよう祈りつつ期待をもって参加させていただきます。

JBWUの活動である「6・23沖縄（命どう宝の日）学習ツアー」も今年14回目を迎えます。開催にあたりOBC女性会の皆さまには多大なご協力をいただき、また時にJBU女性会からも参加者をお送りいただき、良き学びと交わりを重ねてまいりました。平和の主に向かって希望をもって祈り合う仲間が与えられている幸いを感じています。

同時に私たちは、「本土」に住む者として「沖縄の平和こそが私たちの平和である」との祈りが、自分自身の祈りとなるよう願ってまいりました。しかしながら沖縄の現状は厳しくなるばかりで、祈りと行動の弱さと足りなさに心が苦しくなります。

今、ミャンマーやウクライナでも武力により人びとの命が奪われ、尊厳が踏みにじられています。しかし、これらは決して遠くの出来事ではなく、ウクライナ侵攻と沖縄の米軍基地は決して無関係ではありません。「本土」に住む「わたし」が米軍基地を押しつけている沖縄は、明らかに「被害者」であるにもかかわらず、「基地の島」にさせられているが故に「加害者」としての苦しみを背負わされてしまうことに、二重三重の責任を感じます。「本土」に住む者として、沖縄で見聞きしたこと感じたこと、学んだことをどう生きるかが問われています。「主よ、私たちをあなたの平和の道具としてお用い下さい」と祈りつつ、ここからなすべきことを実行する者へと押し出されますように。

最後になりましたが、これまで長きに亘り主催者として準備を進めて下さいましたOBC女性会実行委員の皆さまには大変なご苦勞をおかけいたしました。心より感謝申し上げます。そしてこれまで先立ち導いてくださった主に感謝しつつ、これからも三者で協力し歩ませていただきたいと願っております。

日本バプテスト女性連合
会長 吉高 路

〈日本バプテスト同盟全国女性会〉

主のみ名を賛美いたします。

今日ここに第3回三バプテスト女性会研修会の開催ができますことを、神様とOBC女性会の皆さまに心よりお礼申し上げます。新型コロナウイルス感染の拡大の中にあって、当初の計画を再三見直しながら、丁寧に対応してくださったことを真に感謝いたします。

2004年ABWU沖縄大会に端を発し、今回で第3回の研修会を迎えました。

主題の「和解の福音に生かされて」は3回とも変わることなく、サブタイトルが第1回は～献身・信仰・仕える～ 第2回は～静聴・祈り・実践～そして今回は～使命・奉仕・継承～です。これら

は研修会の柱であり、また各女性会の活動の姿勢として、目標として大切なものと思っています。第1回の同盟の案内文に川人妙子師が「分断と争いの絶えない世界で『和解と平和』のテーマは、重要な課題です。弱い立場のものが益々弱くされ、小さな者が傷み、苦しむ現実がある中で、キリストの救いにあずかる者の群れとして宣教の課題を共に考える時としたい」と書かれていましたが、同様の思いです。

今、ミャンマーで、ウクライナで、その他の国や地域で権力者による理不尽な暴力や虐待、抑圧により多くの人々が困難な状況にあります。また、沖縄が担っている諸問題を覚えます。ナザレのイエスは二重圧政に苦しむガリラヤの人々のために立ち上がりました。私たちもこの研修を通して、一歩前に進むことができますように、主よ、導いてください。

制限のある中ですが、共に祈り、学び、賛美し、語りあって痛みを分かち合う場となりますように。そして、どうぞ私たちが和解のために奉仕する器としてお用いくださいと祈ります。主の平和がありますように。



日本バプテスト同盟全国女性会
前委員長 佐藤惇子

〈沖縄バプテスト連盟女性会〉



開会の日を迎えて

主の御名を讃美します。

いよいよ第3回三バプテスト女性会研修会開催の時を迎えることができました。どのような中であっても、私たちの計画の一步一步を確かな御手もって備え導いて下さった主に感謝します。そして、幾度の変更にもかかわらず、この研修会のために、2年半にわたり日程を確保して備えて下さいました講師のお二人に心から感謝申し上げます。

コロナ禍で制限のある開催とはなりましたが、私たちの当初の計画通りにいかなかったことで、開催が沖縄の「復帰50年」の年と重なり、そして6月開催へと導かれたことに主の深い憐れみと計らいを感じます。

皆様は第10回ABWU大会のテーマソング「シャローム！世界へ」を覚えておられるでしょうか。「シャローム、世界中に愛と平和のメッセージをとどけにゆこう。全ての憎しみあるところに 主のみ名により和解があるように 今こそ心一つに祈りあおう」（抜粋）との。あれから18年経った今、この歌詞が心の中に響いてきます。

私たちは今、武器にはさらなる武器を、攻撃にはさらなる攻撃をという現実を目の当たりにしています。疑いと恐れが広がる世界に和解がもたらされるように、平和が作り出されるように、かけがえのない命がこれ以上傷つけられ奪われていくことがないようにと祈らずにはられません。

この研修会が私たちのよき学びと交わりと分かち合いの場となることを願っています。そして、「使命・奉仕・継承」というテーマが私たち自身のものとなり、ここからまた、和解の福音を携えてそれぞれの場に遣わされていくことができますようにと祈ります。

一連の研修会はこれが最終回ですが、これから後も私たち三バプテストの女性会の交わりが保たれて、協力の道を歩ませていただく事ができれば幸いです。

皆様の上に神様の祝福が豊かにありますようにお祈りいたします。

沖縄バプテスト連盟女性会会長
三バプテスト女性会研修会 実行委員長 金城和江